

第七章 社会貢献

【到達目標】

仏教研究に責任をもつ大学として、人・資料・環境などの大学の知的資産を活かして社会に貢献し、責任をはたす。

そうした目標を実現するため、以下のような具体的な目標を掲げている。

- ①公開講座、セミナー、シンポジウム、公開講演会などの、社会へのいっそうの開放をおこなう。
特に公開講座やセミナーにおいては、それらが生涯学習の機会提供となるよう配慮する。
- ②各種インターンシップ（中学生向け、高校生向け、大学生向け）を積極的に受け入れる。
- ③各種施設（図書館や博物館など）を社会へ開放する。

(社会への貢献)

- ・公開講座の開設等、教育研究上の成果の社会への還元状況
- ・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

【現状の説明】

本学における社会貢献活動の多くは併設の大谷大学と共同でおこなわれている。

本学独自の取り組みとしては、幼児教育保育科による幼教フェスティバルを一般に公開して開催するほか、教員の支援を得て幼児教育保育科有志によるオペレッタ上演をしている。

大谷大学と共同して展開される社会貢献活動を代表するものとして、公開講座があげられる。公開講座は、初学者を対象にした紫明講座、より高度な学びを求める市民を対象とした「開放セミナー」を核として、「京都学講座」「博物館セミナー」「湖西セミナー」などを開設している。「紫明講座」「開放セミナー」は、仏教研究を基礎とする講座と、その他の学問分野を基礎とする講座のバランスを図って企画している。また講座の講師・コーディネーターは専任教員が務めることを原則としており、教育研究とのかかわりを重視した講座運営を心がけている。公開講座の受講者数は、講座により多寡はあるが、平均して 44 名の受講生を得ている。また受講者の地域分布は、京滋地区が中心である（79.5%、2006 年度後期）が、新潟、香川、岩手、福岡などの遠隔地からの受講者（6.4%、2006 年度後期）も参加している。

公開講座に定期的に足を運ぶことが困難な遠方の受講希望者のために、これらの講座のうち、デジタルコンテンツ化の可能なプログラムを E-Learning プログラムとして Web サイト (<http://web.otani.ac.jp/streaming/>) を通じて配信する試みを 2005 年度からスタートしている。

公開講座のほかには、真宗総合研究所が開催するシンポジウム（2 回）、学内学会主催の公開講演会（6 回、学会大会を除く）、博物館主催のギャラリートーク・公開講演会（3 回）、大学院主催の特別セミナー公開講演会（1 回）、大学主催の「暁天講座」（3 回）、宗教行事などにおける公開講演会（8 回）を開催し、教育研究上の成果を市民に提供している（括弧内はいずれも 2006 年度実績）。

名称	主催	開催日
博物館記念講演会	博物館	11 月 3 日
宗教行事 親鸞聖人御誕生会	大谷大学	6 月 1 日

宗教行事 開学記念式典	大谷大学	10月13日
宗教行事 大学報恩講	大谷大学	11月27日
宗教行事 御命日講話	大谷大学	4・5・6・9・10月
暁天講座	大谷大学	7月24日～26日
幼教フェスティバル	幼児教育保育科	12月17日
大津市仰木の里子育て支援講座 オペレッタ上演	幼児教育保育科	10月9日
オペレッタ「大きなカブ」上演	幼児教育保育科	3月2日

表 7-1 2006 年度実績一覧

【点検・評価（長所と課題）】

短期大学としては比較的規模が小さく、併設の大谷大学と共通する基盤のうえに教育を推進する短期大学として、大谷大学と共同で社会貢献活動を展開することは活動の規模や質の向上という面においても本学の特徴となっている。また、共同の取り組みは学科独自の取り組みを制限するものではなく、共同の取り組み基盤を利用して学科の特徴を活かした取り組みを可能としていることも特徴といえる。

ただし、これらの活動は大学にとって少なからぬ経費を発生させ、教員の負担を増大させる。持続的な取組とするためには、これら問題点の解消が必要である。

【将来の改善・改革に向けた方策】

現在までの取組の成果を基礎として、社会貢献への取組が大学の教育研究に反映されるような社会貢献モデルの構築のために、その基盤となる成果、教員の負担、経費などを勘案し、説明責任をはたすことができるよう、外部人材の活用、各種補助金を利用した効率の良いモデルを構想する。

インターネットを利用したプログラム提供においては、学内の E-Learning 開発に貢献する取組を優先するが、大学院修士生を中心とした支援スタッフが質疑応答をするシステムの構築など、伝統的な講座手法と Web の融合を試行する。

（自治体や企業との連携）

- ・自治体や企業等との教育研究上の連携状況

【現状の説明】

企業との共同研究、受託研究については、2006 年度に、真宗大谷派とのあいだに「真宗本廟（東本願寺）造営史研究」と「聖教編纂」の受託研究契約を締結した（契約額は 2 件合計で 3 億 1070 万円万円）。前者は、既存の研究組織内での研究活動が可能であるため真宗総合研究所の指定研究として実施され、後者は、任期付研究員（ポストドクター）の長期雇用をとまなうため真宗総合研究所内に新たに聖教編纂室を開設して推進している。また、経費の提供を受けない共同開発として、真宗総合研究所が開発した、マッキントッシュをベースとしたチベット語入力システム (Otani Unicode Tibetan Language Kit) を Apple 社の OS X にバンドルするための追加開発を同社と共同しておこない、2007 年 10 月 OS X Leopard の標準機能として搭載されることになった。

自治体などとの教育研究上の連携状況としては、博物館が他機関から文化財を寄託され、その調査の委託を受けている。詳細は下表のとおりである。

寄託者	寄託品	寄託・調査期間	調査内容など
久多自治振興会 (京都市左京区)	『大般若波羅蜜多經』 約 600 点 (紙本墨書 鎌倉時代) 『摩訶般若波羅蜜經』ほか 約 200 点 (紙本木版 江戸時代) 大般若波羅蜜多經經櫃 3 点 (木製 室町時代) 經櫃 1 点 (木製 江戸時代) 木製經帙 90 点 (木製 鎌倉～江戸時代) 以上、久多志古淵神社保管の仏典	寄託期間 2004 年 12 月 ～ 2009 年 12 月 調査期間 2005 年 2 月 ～ 2008 年 8 月 (予定)	調査内容 基本的な書誌 データによる 目録の作成 報告方法 目録を中心と した報告書
臨済宗相国寺派 大本山 相国寺 (京都市上京区)	相国寺本坊文書 約 600 点 (紙本墨書 鎌倉時代) 以上、相国寺本坊所蔵の文書	寄託期間 2007 年 7 月 ～ 2010 年 3 月 調査期間 2007 年 9 月 ～ 2010 年 3 月 (予定)	調査内容 基本的な書誌 データによる 分類・整理と 目録の作成 報告方法 寄託者のみへ のデジタル データによ る目録の作 成

表 7-2 文化財の寄託および調査委託 受け入れ状況

【点検・評価（長所と課題）】

人文科学系の短期大学であることもあって、現状では企業との連携については消極的であるが、将来の研究活動をより活性化させていくためには、企業や他団体との連携を視野に入れて社会貢献を考える必要がある。

【将来の改善・改革に向けた方策】

企業との連携に限らず、外部資金による多様な取組にたいして研究者の取組意欲が高まるよう、積極的に推進する姿勢を組織的に表明する。